

「あはは学校」～素直に育つ栄中～
あいさつ・返事・履物揃え(躰の3原則)

国や県の動向

- ・日本国憲法 ・教育基本法
- ・学校教育法 ・学習指導要領
- ・埼玉県教育行政重点施策
- ・埼玉県教育課程編成要領
- ・豊かな学びで未来を拓く埼玉教育
- ・三郷市教育行政重点施策
- ・三郷市の学校教育、三郷の教育

令和 7 年度 三郷市立栄中学校スクールプラン

学校教育目標「澆刺颯爽」～熱意・誠意・鍛錬～

目指す学校像 心身ともに健康で、社会に有為な人間の育成
(学力・体力を伸ばす学校 美しい学校 夢への第一歩を踏み出せる学校)

めざす教師像 相互信頼に基づき、生徒の意欲を引き出す教師

めざす生徒像

「礼儀正しく、本気でやり遂げる生徒」
できるまでやり遂げる生徒(粘り強く最後まで継続する)
礼儀正しい生徒(相手の目を見て、爽やかなあいさつができる)
自信と誇りを持つ生徒(考え、質の高い活動を目指す)

実現のための3つの大切

生徒指導の機能を生かす3つの留意点(自己存在感を持たせ、共感的人間関係を育成し、自己決定の場を与える)を常に意識した相互信頼に基づく教育活動の展開

教師は

授業を大切にする(意欲を引き出し、向上を実感させる授業)

- 生徒の実態を踏まえた取り組みを進める。
→全国、埼玉県学力学習状況調査の活用、学習アンケートの実施
- 授業規律の定着を進める。(「三郷市の「授業の心得」の徹底)
→教員・来校者評価;全項目95%を目指す、授業オリエンテーション、授業の中で適宜確認
- 本時のねらいを提示し、「教えること」「考えさせること」をバランスよく配置した授業展開
→「主体的・対話的で深い学び」を通し理解深化の方策を(個別化、協働等)示す、ICT機器の活用、話し合い活動等
- 家庭と連携した家庭学習の習慣化→学習研修部会の実践、生徒・保護者評価90%以上
- 地域や各関係機関との連携を通した体験学習の充実→各学年とも年2回以上
- 表現力テスト、NIE学習を通した読解力、表現力、思考力の向上
→県学調・全学調での結果検証→授業へのフィードバック
- 考え・議論する道德教育の充実→相互参観による授業改善等

生徒は

- 自分たちの教室環境を自分たちで整える。
- はじめと終わりの挨拶を行うことができる。(切り替え)
- 授業規律を守り、授業に集中する。(三郷市「授業の心得」)
- 自分の考えを様々な方法で表現し、他者に分かりやすく伝える。
(ノート記入、発表の仕方、ICT機器の活用…)
- 疑問点をそのままにしない学習姿勢を心掛ける。(積極的に質問)
- 1分前着席による予習・復習の習慣化を図る。

教師は

心身を大切にする(安全な行動と安心して活動できる信頼感)

- 安心・安全な教育活動の実践→実態把握に基づく教育計画、予備実験、会場整備等、事前準備の徹底、体験活動の充実
- 読書活動を通した情操教育→生徒一人平均年間22冊以上の貸出(3学年は目標15冊)をめざす。図書館司書によるレファレンス20%増及び図書館活用授業の実施
- 家庭読書を推進し、親子の交流を深化→家読郵便コンクールへの出品60点以上
- 読書活動・道德教育・人権教育・福祉教育を中心として、情操を豊かにするとともに、生命や人権を尊重する精神の醸成→生徒事故0
- よい行いを積極的に賞賛→地域からの声、校長賞
- 「ダメなものはダメ!」という毅然とした指導と最後まで見届ける粘り強い支援→責任を持たせる・鍛える・見届ける・視野を広げる
- ボランティア体験・職場体験・交流体験を通して、社会のルールを実践的、体験的に学ぶ機会の確保→交流学習、校外活動、公共施設
- 体育授業および部活動等、運動の楽しさを十分に経験させ、運動の習慣化を進める→新体力テストの向上項目70%以上
- 効率的な取り組みにより、活躍する機会の確保
→部活動等の各種大会、コンクール等への出場や参加
- 家庭と連携を図り、保健指導を充実→自身の健康管理、歯のコンクール等
- 生徒相互のコミュニケーション機会を意図的・計画的に設定
→生徒間トラブル60%減、心の醸成、いじめ防止教室、非行防止教室

生徒は

- 前向きな態度で何事にも粘り強く挑戦しようとする。
- 必要なルールを守り、集団、地域の一員として活動できる。(公德心)
- 気持ちのこもったあいさつをこころがけ、互いを大切にできる姿勢を大切にする。(認め合い)
- 自分も他人も大切にすることができる。(自尊感情と思いやり)
- 積極的に人と関わり、よりよい人間関係をつくる。
- 自分の命は自分で守る姿勢を持つ。(危険予知・回避能力)
- 健康に関心を持ち、進んで運動する。
- 自分の役割に責任を持ち、誠実に行動できる。(責任感)

教師は

環境を大切にする(教師と生徒が一緒につくる人的・物的環境)

- 高い指導力と人間性豊かな教職員集団
- ・人事評価制度を活用し、教職員一人一人のよさを伸長・反映(管理職)
- ・職員のライフステージに応じた積極的な研修の推奨。
- ・学校課題研修に積極的に取り組み、向上を実感できる教員の育成
- ・学校全体で諸問題に対応できる職員室の雰囲気醸成。
- ・信頼される教職員集団を目指す→教職員倫理確立委員会、事故0、苦情0を目指す
- ・ベテラン職員から技術継承と若手職員の育成
- ・学年主任のリーダーシップのもと、前向きな学年集団づくり
- ・地域及び外部人材を積極的に導入、適切な校内掲示計画を進める。
- 美しく安全な学習環境の整備
- ・定期・臨時の安全点検(触診)と見届けを徹底→危機管理意識の向上
- ・日常の清掃活動を見直し、校内の環境美化を進める。
- ・実践的な避難訓練や防犯教室の計画と実施、実態に合わせた交通安全教室の実施
- ・学校予算を有効活用し、計画的な環境整備の推進
- ・学習センター機能を中心とした学校図書館と図書館司書の活用
- 適切な言葉遣いと豊かな表現力
- ・読書活動を通して豊かな表現力と語彙力を育成
- ・言葉に敏感な意識を持ち、自ら率先して適切な言葉遣いの徹底
- ・詩や作文など多く作品に触れ、豊かな表現力を育成につなげる。
- ・「夢への挑戦」、「表現力テスト」等の継続的な取り組み

生徒は

- 学校の施設・設備を大切にする。
- 積極的に清掃活動や校内ボランティア活動に取り組み、過ごしやすい学校にしようとする。
- 常に気持ちのよい教室環境を保つ。
- 限りある資源を大切にしようとする姿勢を持ち、有効に使うことができる。
- 場に応じた適切な言葉遣いができる。
- 相手の目を見て明るいあいさつ、気持ちのよい返事ができる。

数値目標

- ・東部地区学校(3年)→SS52以上、
- ・次年度、全国学力学習調査 →県平均以上
- 〃、埼玉県学力学習状況調査→県平均以上
- ・実力テスト →1年;SS50以上
2年;SS52以上
- ・伝統の継承→あいさつ・返事・履物をそろえる、生徒と教師が作り上げ感動的な式典、校外行事でのマナー、花咲かせ隊等のボランティア活動
- ・挑戦→NIE学習、家読コンテスト・調べる学習コンクール、社会を明るくする運動

相互信頼に基づく学校づくり

- 共感的人間関係の育成(全教育活動で)
- 小学校との連携(授業参観と情報共有)
- 教育活動の公開(いつでも公開できる学校)
- 地域、保護者との連携(地域人材の活用)
- 地域との交流(ボランティアで輝く生徒)
- 地域行事へ参加(地域の一員としての自覚)



今年度の重点

学力向上の3項目

- ①「確かな学力」の定着 ～授業力向上から、理解を伴った知識・技能の育成～
- ②「協働的な学び」による表現力の育成 ～基礎的な知識・技能を活用し、協働しながら創意工夫する力の育成～
- ③「個別最適な学び」による学習習慣の確立 ～計画的に学びに向かい、自らを調整しながら学習する力の育成～